

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立松阪商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校像		○ 生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 生徒一人ひとりの自己指導能力(そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力)を持った生徒を育成する。
	ありたい 教職員像	○ 授業改善に取り組み、わかる授業を展開し、生徒の学力を伸長させる教職員。 ○ 共通認識をもち、それぞれの個性を生かしつつ組織力を高め、生徒に向き合い、きめ細かい指導を行う教職員集団。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒></p> <p>○ 充実した学校生活とクラブ活動の活性化、進路希望の実現を望んでいる。</p> <p><保護者></p> <p>○ 生徒が安全安心な高校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。</p> <p><地域></p> <p>○ 生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。</p>
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭></p> <p>○ 安全・安心な教育環境の中で、心身ともに健康な生徒を育成してほしい。</p> <p>○ 進路希望を実現できるよう支援してほしい。</p> <p>○ 学校の教育活動等の情報を迅速に知らせてほしい。</p> <p><中学校></p> <p>○ 学力面、生徒指導面での中高の連携をすべての教職員レベルで図ってほしい。</p> <p>○ 外国人生徒の指導について、一層の連携を図りたい。</p> <p><地域社会></p> <p>○ 関係機関、事業所との連携・協力を進めてほしい。</p> <p>○ 挨拶・身だしなみ等は地域の学校評価の大きなポイントなので、一層指導を推進してほしい。</p> <p>○ 学校の教育活動等の情報を発信してほしい。</p>	<p><家庭></p> <p>○ 本校教育方針への理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育を期待したい。</p> <p><中学校></p> <p>○ 基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有を期待したい。</p> <p><地域社会></p> <p>○ 本校の専門性や特色を理解し、生徒の活躍の場を与えてほしい。</p>
(3)前年度の学校関係者評価等		<p>・「授業アンケート」が全クラスで実施されていない。授業改善のために、全クラスでアンケートを実施し、学校全体で授業改善に取り組んでいくべきである。</p> <p>・地域から要請のある活動について十分取り組めていなかったため、地域社会との連携をより進めていくべきである。</p> <p>・学校の活動が保護者に十分に伝わっていないことから、ホームページのリニューアル等多様なツールを用いて一層の保護者への情報発信に取り組んでいくべきである。</p>

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単位制高校としての利点を生かし、少人数や習熟度講座を編成し、学習者へのきめ細かな指導を行い、希望進路の実現を図っている。 ○ 普通科志向の風潮の中、専門学科が敬遠され、募集定数の確保が難しい学科もある。学科の特色や強みを生かした教育活動を展開し、地域に魅力を発信することが大切である。 ○ 専門教科に比べ、一般教科の学力定着・向上に課題がある。生徒が基礎基本の学力の定着を図ることができるよう、家庭学習など自律的に学習する習慣を身につけることが重要である。 ○ 商業や英語関係の高度な資格取得に積極的に取り組み、大きな実績を上げている。 ○ 平成29年度、いじめの認知件数は0件であったが、今後も引き続き「三重県いじめ防止条例」に基づき、いじめの防止及び早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全・安心な学校生活を送ることができるよう学校全体で取り組む必要がある。 ○ 国際教養科における海外研修旅行を充実するとともに、グローバル教育を推進するため、国際交流の機会を拡充する必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。 ○ 伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。 ○ 生徒が落ち着きを取り戻し、学習活動や部活動、挨拶を始めとする礼儀や身なりなど地域からも一定の評価を受けるようになってきている。今後も一層、生徒の社会的自立に向け基本的生活習慣や社会性を身につけさせる取組を向上させる必要がある。 ○ 生徒の持てる力を一層伸ばすため、教職員相互の授業研究を行うなど授業改善の取り組みを推進することが求められる。

3 中長期的な重点目標

<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善に取り組み、わかる授業を展開し、生徒の学力を伸長させる。 ○ 生徒の自己指導能力を高める。 ○ 生徒が自己実現に向けた進路決定ができるようにする。 ○ 商業や英語関係の高度な資格取得に一層取り組み、進路決定につなげていく。 ○ グローバル教育を推進するため、海外研修旅行や国際交流を充実する。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒にわかる授業を展開し、学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業改善を推進する。 ○ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀を身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ○ 外部の関係機関と連携して教育活動を行うことで、生徒が現実の社会のなかでビジネスを学ぶ場を創出するなど多様に学ぶ機会を保障するとともに、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ○ 教職員の総勤務時間の縮減等働きやすい職場環境づくりを行い、教職員の一層の資質向上に取り組み、質の高い教育を目指すため、次の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間15%削減を目指す。 ・定時退校日の設定(月1日) ・部活動休養日の設定(原則土日に週1日)、より効果的な練習内容の精査による活動時間の設定等「三重県部活動ガイドライン」に基づいた適切な部活動運営。 ・会議時間の短縮(会議スマートルールの適用。) 60分以内に終了する会議の割合を80%を目指す。 ・休暇取得日数の増加(休暇を年に1日多く取得) ・1月あたり80時間を超える時間外労働を行うのべ教職員数の減少。 ○ 学校の教育活動の情報発信を充実。
学校運営についての改善策	<p>総勤務時間の縮減について、会議の精選や校務分掌等の業務の整理・見直しを行うとともに、部活動の休養日、定時退校デーの設定等具体的な取組を行う。商業及び英語関連の専門学科の特色と強みを生かして、外部の関係機関と連携して教育活動を行うことで、生徒が多様に学ぶ機会を保障するとともに、「ソーシャル・ビジネス・プロジェクト (SBP)」を始め地域との連携を一層推進し、将来につながるしくみづくりを進めるとともに、ホームページを充実し情報発信に努める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
規律ある行動の徹底 防災訓練の実施 保護者アンケートを実施	(1) 式・集会を通して集団の一員としての自覚を深めさせ、迅速な整列・行動を周知徹底させる。 (2) 緊張感のある防災訓練などを通じて、集団行動の重要性を認識させ、危機管理や防災についての意識の高揚を図る。 (3) 2学期末に保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、保護者にフィードバックするとともに本校教育活動に活かす。	(年度末および適宜記載)	
家庭学習習慣の定着	(1) 学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 <ol style="list-style-type: none"> ① 学習時間調査シートを使い、生徒に1日の生活時間を1週間記録させる。 ② 1週間後、1日当たりの家庭学習時間の平均を記入させ、シートを回収する。 ③ 生徒の生活時間を診断し、学習時間を確保するためのアドバイスをするなど、個別面談での材料として活用する。 ④ クラス全員の家庭学習時間を集約し、生徒個別目標やクラス目標を設定してもよい。 【活動指標】 年度末に教員の自己評価で、実施したクラス数を100%にする。 【成果指標】 生徒の1日の家庭学習時間が、1時間以上となる生徒の割合を100%にする。	(年度末および適宜記載)	
進路希望の実現(3年生) 将来の進路への意識の向上(1、2年生)	(1) 積極的に企業訪問を行い、企業情報を生徒に的確に伝える。 (2) 職員全体での面接指導を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 (3) 進路内定後、校長面談、進路講話を実施し、社会人になることへの自覚・意識の向上につなげる。 (1) 外部講師等を活用した進路講話・ガイダンスを実施する。 (2) 進路に関わる情報を的確に発信する。	(年度末および適宜記載)	

生徒指導の 充実	<p>(1) 丁寧な頭髪服装指導や着こなし講座の実施により、自発的な「見た目」向上の意識付けをはかる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>頭髪服装指導日までに十分な準備のできる生徒、日ごろから端正な頭髪服装を心がける生徒を増やすため、啓発に力を入れる(講話・通信等)。</p> <p>【成果指標】</p> <p>頭髪服装指導における合格生徒の数を昨年度より増やす。</p>	(年度末および適宜記載)	
生徒会活動 の充実	<p>(1) 生徒主体で生徒会行事・企画を運営していく。</p> <p>(2) クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>(3) エコキャップ回収・自転車ツーロック運動・地域清掃等、環境に関する活動の活性化に取り組む。</p> <p>(4) 主権者教育に取り組む。</p> <p>(5) ボランティア活動に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 生徒が主体で各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を運営し、すべての生徒が楽しんで思い出に残るような行事を計画・実行し、行事ごとでアンケートを実施する。</p> <p>(2) 生徒会誌「松籟」等で部活動成績等の紹介を行う。</p> <p>(3) クラス対抗エコキャップコンクールを実施(1学期)する。</p> <p>(4) 自転車啓蒙活動(ツーロック・交通安全を含めた活動)を行う。</p> <p>(5) 地域に貢献する活動を行う(ボランティア活動)。</p> <p>(6) 主権者教育の一環として、松阪市選挙管理委員会協力の下、生徒会役員選挙を実物の機材で行い、「選挙」に対する意識付けを行う(模擬投票や学習会の企画)。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) エコキャップ回収:13,000 個を目標とする。</p> <p>(2) ベルマーク回収:3,000 点を目標とする。</p> <p>(3) 自転車交通ルール徹底・管理及び乗車マナーの意識調査を実施する。安全教育の推進を図る。</p>	(年度末および適宜記載)	◎ ※ ※
保健指導の 充実	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と健康への理解を深め、疾病の予防に努めさせる。</p> <p>(2) 心の自己管理能力を高めさせ、望ましい人間関係を作らせる。</p> <p>(3) 男女の特性を理解させ、健全な交際のあり方について理解を深めさせる。</p> <p>(4) 健康で安全な環境づくりと環境美化に努めさせる。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
人権教育の 推進	<p>(1) 学校生活の様々な場面・側面を通じて人権意識を育み、周囲にある課題に主体的に気づいて取り組み、自立した行動を選択できる社会的技能を持った生徒を育成する。</p> <p>(2) 人権教育推進計画に基づき、HRや教科学習、講演などにおいて人権尊重の精神を培う。</p>	(年度末および適宜記載)	

	(3) 近隣の小・中学校と積極的に連携をはかり、出前授業等の実践的な機会を通じて他者を理解・尊重する姿勢を育む。		
図書館利用 教育	<p>(1) 学校図書館の利用の意義を理解し、またマナーの習得等、生涯教育の場となる公共図書館等の利用につながるような基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>(2) クラス生徒への働きかけのきっかけとなるように、図書委員会活動を活性化させ、親しみやすい学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】 マナー指導や図書委員会による「図書館通信」の発行及び展示等を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用にあたってのマナー指導(随時)を行う。 ・図書委員会による「図書館通信」を発行(年5回程度)する。 	(年度末および適宜記載)	◎ ※
資質向上の 取り組み (情報ビジネス科)	<p>(1) 1年生に無理なく「簿記」の基礎知識を習得させ、「簿記」嫌いを作らない。</p> <p>(2) 専門学校との高専連携を活用し、新範囲が増えた日商簿記検定合格者の増加を目指す。</p> <p>(3) ビジネス文書検定や珠算・電卓検定等幅広い科目で上位級の合格者を増やし、より商業科目の習得に自信を持たせる。</p> <p>(4) 地域から必要とされる商業高校を目指し、企業や業界団体との連携を一層深め、学校のみならず企業や地域で学ぶ機会を増やすことで、実践的なビジネス教育を目指す。</p>	(年度末および適宜記載)	
「教育課程・ 学習指導」 「キャリア教育」 (情報システム科)	<p>(1) サマースクール、ウインタースクール、情報システム科合宿により情報技術に関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、高度な資格試験合格を目指す。</p> <p>(2) 学習した知識を生かすため、外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める。</p>	(年度末および適宜記載)	◎ ※
キャリア教育 (国際教養科)	<p>(1) 実用英語検定及び全商英語検定の資格取得、TOEIC のスコアを有効活用し、進路選択の一助にするため、授業改善に教科一丸で取り組み(授業見学や先進校視察等)、課外授業や個別指導においても積極的に生徒の支援を行う。</p> <p>(2) 本校生徒が地域の小学校に出向き、英語指導行うことにより、児童たちに「英語学習の楽しさ」を教えるとともに、英語を学ぶ楽しさを共有する。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総務業務の円滑化	(1) 業務分担の明確化および業務のスケジュール化を図り、進捗管理を行う。 (2) 分掌、学年、教科、事務と密接な連携を図り、共通理解のもと、円滑な教育活動の推進に努める。 (3) P T A総会、P T A役員会、研修旅行等を通じて、P T Aとの密接な連携を図る。	(年度末および適宜記載)	
学校教育活動の広報	(1) オープンスクール、学校説明会、授業公開を実施する。 (2) 学校紹介パンフレットを作成し、中学生に本校での学習や部活動について知ってもらう。 (3) 学校H Pをリニューアルして、広報活動の充実を図る。また、H Pの更新を随時進め、最新の情報提供を行う。 (4) 携帯メール配信システムを有効活用し、緊急連絡網としての機能を維持するとともに、本校教育活動の広報に活用する。	(年度末および適宜記載)	
授業改善の取り組み	(1) 授業ノウハウの共有 【目標】 教員が授業の工夫や授業改善を公開、その工夫や改善方法を共有する。 【取組内容】 ① 年度初めにすべての教員が、授業改善のための工夫、アイデアを一つ以上設定し、授業改善設定シートに記入する。改善の工夫は新規に行うものだけでなく、すでに行っていることの継続でも可。複数で担当する場合は共同での設定も可。年度途中の設定も可。 ② 授業改善設定シートはデータベースに登録し、全教員で共有する。 ③ 授業で実施する。 ④ 年度末に自己評価し授業改善評価シートに記入する。結果をデータベースに登録し、ノウハウを共有する。 ⑤ 次年度は新たな改善策を設定するか、自身の改善策を改良するか、あるいは共有された改善策を利用する。 【活動指標】 設定された改善の工夫に対して、年度末の自己評価で、次の3点がすべて評価される。 ① 実施の状況(できた、できなかった、途中で中止した) ② 成果の有無(効果があった、効果がなかった) ③ 改善策の分類(継続、棄却、修正継続) 【成果指標】 ・教員による上記の自己評価のうち②については、生徒による授業評価など担当者が実施してもよい。	(年度末および適宜記載)	

授業アンケートの実施	<p>(2) 授業アンケートの実施</p> <p>【目標】生徒に「授業アンケート」を実施して、授業のさらなる改善に活用する。</p> <p>【活動指標】授業アンケート実施率 100%を目標とする。</p> <p>【成果目標】「授業の理解度」の肯定意見を 80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を 70%以上にする。</p>		
教職員全体で進路指導に取り組む体制をつくる。	<p>(1) 職員全体での面接指導を計画的に行う。</p> <p>(2) 課外授業を計画し、受験生徒の支援を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	
保護者への情報発信を充実させる。	<p>(1) 入学式後に保護者への進路説明を行う。</p> <p>(2) 総務部と連携し、PTA総会後に保護者対象進路ガイダンスを実施する。</p> <p>(3) 進路だよりを定期的に発行する。</p>		
生徒指導における組織力向上	<p>(1) 生徒指導におけるチームワーク力の向上。</p> <p>(2) 頭髪服装、交通マナー、アルバイトなどの指導において情報共有し、共通認識を持って生徒に対応する。</p> <p>【活動指標】生徒指導、学年団との情報共有の場を作る。</p> <p>【成果指標】問題のある生徒への共通認識を持ち、教員全体の組織力の向上を成果指標とする。</p>	(年度末および適宜記載)	
生徒会と保護者・地域との取組	<p>(1) VIVA松商を実施し、PTA役員・総務部・生徒会顧問・生徒会執行部役員が集結し、松商の学校生活等について協議する。</p> <p>(2) 地域から要請のある活動に生徒を積極的に参加させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) VIVA松商を1学期の期末テスト中に実施し、情報を共有し、学校活性化につなげていく。</p> <p>(2) 校外活動（清掃活動等）に参加する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) VIVA松商に2つ以上提案する。</p> <p>(2) 年間、校外活動を2回以上行う。</p>	(年度末および適宜記載)	※ ※
保健部の活動	<p>(1) 生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活が送れるように支援する。</p> <p>(2) 特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動を行う。</p> <p>(3) 保健に関する情報提供と健康増進のための情報を発信する。</p> <p>(4) 健康診断と救急処置及び日常的な保健指導を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>(5) 心身の健康教育と、教育相談による心のケアを充実させる。</p> <p>(6) 校内の環境美化活動とごみの分別を徹底する。</p>		
人権教育 研修	<p>(1) 教職員の人権意識を高めるため、現職教育の開催や校外研修への積極的な参加を促進する。</p> <p>(2) 人権教育の視点から公開授業をおこない、取り組みを通じて教職員の指導力の向上を目指す。</p>	(年度末および適宜記載)	
学校図書館の 情報提供	<p>(1) 各教科との連携を密にし、アクティブラーニング活動につながる教育支援の充実に努める。</p> <p>【活動指標】図書館利用につながる案内とサービス（資料提供、レファレンスサービス）を行う。</p> <p>【成果指標】必要に応じた案内とサービス（随時）を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
「保護者・地域住民等との連携」 (情報ビジネス科・情報システム科)	<p>(1) 各種検定・国家試験等の日程や計画を明確にすることで、保護者と連携した教育活動をおこなう環境づくりに努める。</p> <p>(2) 小中学校や大学・専門学校との連携により、生徒に幅広い教育機会を与える。</p>	(年度末および適宜記載)	
組織力の向上 (国際教養科)	<p>(1) 国際教養科在籍生徒の学力向上の組織構築のため、国際教養科委員会を定例化する。</p> <p>(2) 英語科及び他教科との連携を図りながら、公開授業や先進校視察など授業改善に取り組み、教員の資質向上に取り組む。</p>	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業アンケート」が全クラスで実施されていない。授業改善のために、全クラスでアンケートを実施し、学校全体で授業改善に取り組んでいくべきである。 ・地域から要請のある活動について十分取り組めていなかったため、地域社会との連携をより進めていくべきである。 ・学校の活動を生徒を通して文書で発信してきたが、情報が保護者に十分に伝わっていないことから、ホームページ等多様なツールを用いて情報発信に取り組んでいくべきである。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
--------------	--